

研究テーマ	山梨県固有のデザインソースの編集とアーカイブ構築 (第1報)		
担当者 (所属)	串田賢一・鈴木文晃・佐藤博紀・石田正文・金丸勝彦・三井由香里(工技セ)・ 五十嵐哲也・秋本梨恵(富士工技セ)		
研究区分	総理研研究	研究期間	平成25～27年

【背景・目的】

近年、日本では、各地の歴史・文化に育まれてきた素材や伝統的技術などの地域資源を活かして現代生活や市場で通用する商品開発やブランドを確立しようとする取組が盛んに行われている。

こうした中、中小企業が競争力ある商品開発を行うためには地域資源の有効活用を図ることがこれまで以上に重要になってきており、より深みのあるコンテンツづくりとその流通に取り組む必要が高まっている。

本研究は、地域の中で眠っている地域資源や歴史資源を調査し、商品開発に活用することのできるデザインソースとして編集～公開することで、中小企業のオリジナリティあふれる商品創出に資することを目的としている。

【得られた成果】

① 模様

早川家の染め型紙から85点、甲斐絹から30点をセレクトし、これらのスキャンデータを基にDTPや3次元CADに使用することのできるシームレスなベクターデータを作成した。(図1)

(提供データ: Adobe Illustrator 形式/
サイズ: 200mm×200mm)



図1 ベクターデータ化した文様(一部抜粋)

② 色 彩

県内の26地点において土を採取し、乾燥～異物除去等の工程を経て45色のカラーサンプルを得た。(図2)サンプルは測色計によりLab値を求めた。

(提供データ: Lab値)



図2 土の採取場所と処理済みのカラーサンプル

③ 物 語

県内に伝わる昔話・伝説の中から商品化に結びつく可能性が高い内容を含む20話をセレクトし、出典の原文をテキストデータ化した。

(提供データ: Jpeg形式)

【成果の応用範囲・留意点】

- ・企画やコンセプト次第で、ジュエリー、ワイン、織物、ニット、木工、和紙、食品、印刷、観光等、幅広い産業の商品開発等に活用することのできる地域固有のデザインソースとして機能する。
- ・編集したデザインソース(デジタルデータ)は簡易的なデータベース形式に整理しており、閲覧することは可能だが、Webや冊子等を利用しての一般公開についてはH27年度の取組となる。